

議会運営委員会先進議会調査報告

令和7年1月15日栃木県高根沢町・
16日埼玉県川越市

議会運営委員会

栃木県高根沢町「1月15日」

▼常任委員会の集約

高根沢町議会では、令和4年4月の改選より定数が13名となり、常任委員会を現在の3委員会から2委員会にすることや、委員数を減らして現状の3委員会を維持するかが議論された。常任委員会においては、討議できる人数が多い方が多様な意見が出る、欠席者や欠員などが出た場合に極端に少ない人数になつてしまふ、ということから2委員会が望ましいとの結論となり、2常任委員会に集約し、委員会名も町民に親しみやすい「まちづくり」と「くらしづくり」とした。

岩沼市議会も今期より定数が16名となり常任委員会の人数が減っている中で、以前3名の欠員、4名の欠員を経験し、さらに感染症感染などによる欠席が増えた場合の常任委員会の運営が難しい場合が出てくると考えられる。また、委員会内で多様な意見を出していくためにも、2常任委員会

への集約を早急に検討するべきと考える。

埼玉県川越市「1月16日」

▼川越市議会ハラスメント根絶条例

川越市議会では、一人の市議員のパワハラ被害に対する声が発端で、約半年でさまざまな段階を踏んで条例制定までに至った。その中でも、ただ条例を制定して終わりではなく、各議員がハラスメントに対する意識を持ち続けるために、継続した研修会の開催を義務付けるなど、市議会としてしっかりとハラスメントに向き合う取り組みを行っていた。

セクハラやパワハラを始め、さまざまなハラスメントが取りざたされている現代において、岩沼市議会でも、必要な内容のひとつと捉え、早い段階での検討を始めることが望ましいと考える。合わせて、川越市を参考に継続した研修会の開催についても議論を行い、議員個々の意識もしっかりと持つことも市議会全体として必要なことと考える。



高根沢町で調査する委員

建設産経常任委員会 市民との意見交換会

▼岩沼市管工事業協同組合・(株)ウォーターエージェンシー・第一環境(株)との意見交換「1月16日」

岩沼市の水道事業を受託する岩沼市管工事業協同組合と(株)ウォーターエージェンシー、第一環境(株)と建設産経常任委員会で岩沼市の水道について研修と意見交換会を行った。

水道業は、将来にわたり安心・安全で良質な水道水を安定的に供給し続けるために、現状分析を行い課題を明らかにし、それらの課

題を解決するために、目指すべき将来像を見据えた施策を行う必要がある。

岩沼市においても水道インフラの老朽化が大きな課題となっている。しかし、今後も適切なインフラ管理を行い、災害などが起きて市民に安心・安全な水を供給することが重要であり、そのためには民間企業と連携を行いながら、効率的な運営を行うっていく必要がある。そして、老朽化する玉崎浄水場の管理や更新・運営も重要な課題になっている。

今後も現状を理解して課題を解消していくために研修や意見交換会を継続して行っていく必要がある。



意見交換を行う建設産経常任委員